

西国巡礼慈悲の道

西国第十一番 醍醐山上醍醐・准胝堂

あわれしるこころ

座主 仲田順和



京都—この古い都の長い歴史・時の流れは、多くの夢ときめきをもたらします。水の都とも呼ばれるように清らかな澄んだ川が流れ、その源には都を囲む山々があり、折々の語りいと祈りを秘めています。神々が集い、諸仏諸菩薩が雲集し、人々の生活を通して芸術が生まれ、文学が育まれてきた大きな舞台でもあります。

この都を舞台に紫式部は

『源氏物語』を創作しました。物語の底を流れる精神は、私たち日本人の心のふるさとです。この物語の心は、今日を生きる私に、未来へ向かう姿勢を示唆し、鼓舞するものであります。だれもが世の乱れを思い、汚れを感じる時、この物語が描く神秘の都「平安京」が清々しさと、安らぎをいかに与え続けてきたかを思わずにいられません。

語り継がれてきた物語の

心を光源氏の一生が語りかけます。いつも「あわれしるこころ」を抱いている源氏びとたち、「心やわらか」な気持ちで、自分を素直に変えることの出来る女性たち、「色好み」の真髄でもある、相手の個性を尊ぶこととの上手な光源氏のような男性たち、登場する一人ひとりが「人間はなぜ生きているのだろうか?」「この世をどのように生きればよいか?」などの課題を見事に答え伝えていきます。

らの思いはこの物語に秘められています。「あわれしるこころ」とは、その人の身になつて思い、みることでしよう。そして、その生き方に美を求め、月や雲、雪や花に自然を思いながら、時の経過はさまざまな道を導き、歴史として大きな広がりとなりました。いま世界の人々は、この地に古の神秘の心を求めて、そして、その舞台にふれたいと京都を訪れます。

華麗・優雅な都びとの生活、華やかな恋愛、その底に流れる清々しい美を求める思い、朝な夕なに死に直面する厳しい巡り来る大きなドラマ、現代にすっかり失われてしまっているこれ



西国第十一番

かみだいご じゅんていどう
醍醐山 上醍醐・准胝堂 真言宗醍醐派総本山醍醐寺

御本尊／准胝観世音菩薩 開基／聖宝理源大師

ぎやくえん も すく がん
逆縁も 洩らさで救う 願なれば
じゅんていどう たのも
准胝堂は 頼母しきかな



✽ 主な年中行事 ✽

- 1月6日 初聖宝会
- 2月3日 節分会星祭
- 2月15日～21日 五大力尊仁王会前行
- 2月23日 五大力尊仁王会大法要
- 3月春分の日 春季彼岸会中日土砂加持大法要
- 5月15日～21日 准胝観音総供養
准胝観音ご開扉
- 15日 准胝観世音菩薩曼荼羅供大法要
- 7月6日 開山忌
- 8月5日 醍醐山万灯会
- 8月6日 堅義会 虫除け虫封じ祈願法要
- 9月秋分の日 秋季彼岸会法要

毎日午前10時30分と午後2時に下醍醐・観音堂でお勤め（観音経・般若心経）を誦読しております。

※ご参拝および納経は下醍醐・観音堂で行っております。

❁ 観音風光 ❁

「心の返し場所」

私たちは、意識するとしなにかかわらず、多くの人の心をいただき、生きとし生けるものの「いのち」をいただいて、生活しています。受けた心、受けた「いのち」のお返し場所を探しながら生活するのが人の道である、とお観音様は私たちに優しくご自身の行動で示されておられます。

ご詠歌の意味

観音様のお徳で結縁し、新しい命を授かり喜びとする中で、その命を失うという深い悲しみからもお救いいただく。そんな大きな願いを持たれる准胝観世音菩薩は、まさに諸佛諸人の母である。

〒601-1325 京都市伏見区醍醐東大路町22

TEL 075-571-0002

納経時間 午前9時～午後5時（但し、12月第1日曜日の翌日～2月末日は午前9時～午後4時）
（拝観受付は閉門の30分前終了）

西国三十三所礼所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。